

情報連絡員報告総括表（令和6年10月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化					
製 造 業	食料品	1	2	1		4		1	3			4			2	2		4			4		1	3			3	1				
	繊維工業		2	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			1	2				
	木材・木製品			1		1			1			1			1			1			1			1				1				
	紙・紙加工品		1	1			2	1		1		1	1		1	1		1	1		1	1		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			3			3			3			3			3					
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1				1			1			1			1					
	一般機器		2	1	2	1		2	1			3			1	2		2	1	1	1	1	1	2			2	1				
	電気機器			1			1		1			1				1			1			1		1				1				
輸送機器			1			1		1			1				1		1				1			1			1					
その他																																
小計	2	10	8	2	14	4	6	13	1		18	2	1	10	9		17	3	1	14	5	2	17	1		12	8					
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2					
	小売業	1	4	1		6		3	3			5	1		4	2		4	2					5	1		4	2				
	商店街	1			1			1			1			1				1						1			1			1		
	サービス業		3	1	X			2	2			4			3	1		3	1					4			4			3	1	
	建設業	1	3						4			4			4		1	2	1				1	3			4			1	2	1
	運輸業		1					1			1				1			1						1			1			1		
	その他	1	1						2			2		1	1			2						2			2			2		
小計	4	14	2	1	8		8	12		1	18	1	3	12	5	1	16	3		19	1		1	15	4							
合計	6	24	10	3	22	4	14	25	1	1	36	3	4	22	14	1	33	6	1	14	5	2	36	2	1	27	12					

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和5年10月～令和6年10月)

三重県中小企業団体中央会

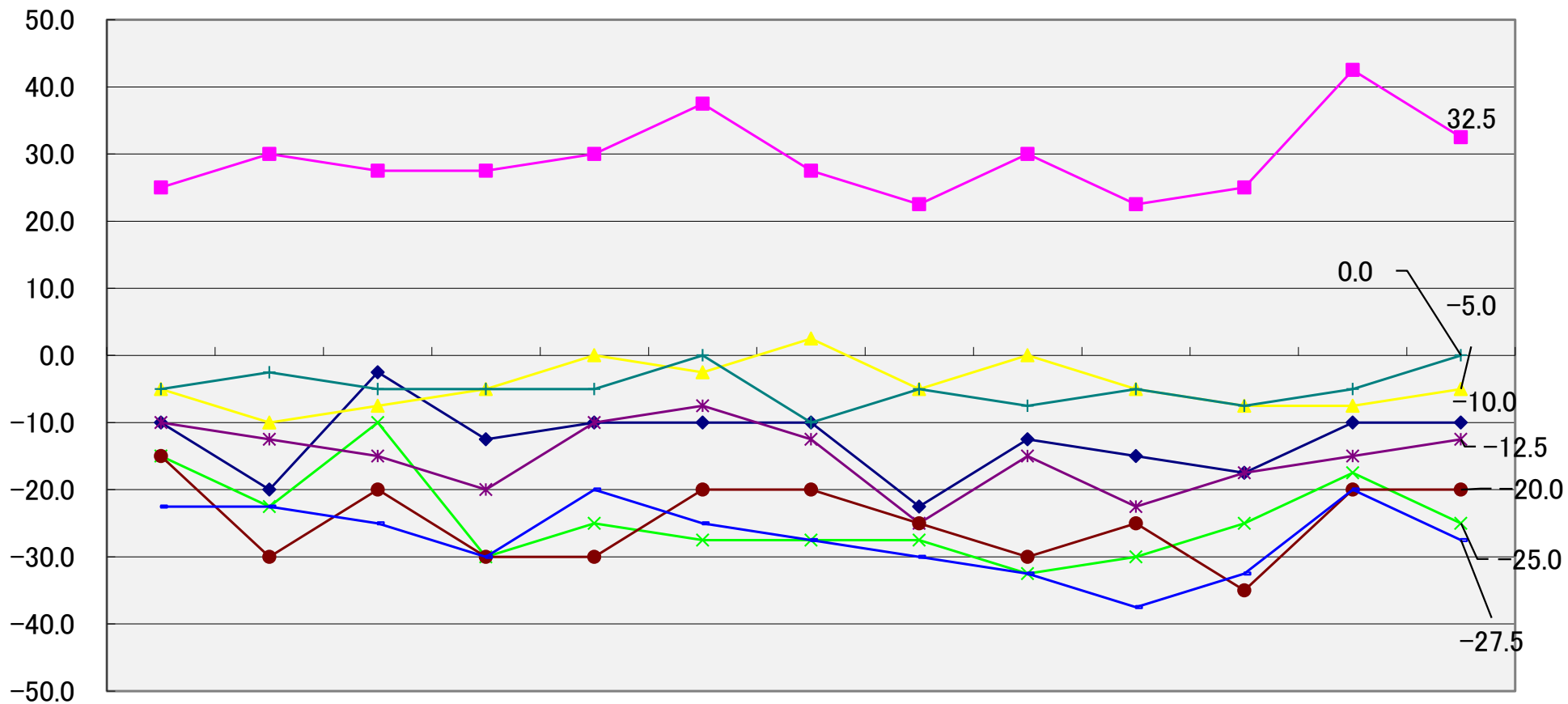
連絡員総数 40名

	5/10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	-10.0	-20.0	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0
販売価格	25.0	30.0	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	-10.0
取引条件	-5.0	-10.0	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	2.5
収益状況	-15.0	-22.5	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-7.5
資金繰り	-10.0	-12.5	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	2.5
設備操業度	-15.0	-30.0	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	-5.0	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	5.0
業界景況	-22.5	-22.5	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

5/10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月



◆ 売上高
 ■ 販売価格
 ▲ 取引条件
 ✕ 収益状況
 ✱ 資金繰り
 ● 設備操業度
 + 雇用人員
 — 業界景況

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり、経営を圧迫する状態が続いている。今年の秋蒔きの原料野菜栽培において、例年に見られないような高温、乾燥の影響により、生育への影響が懸念されている。 今年度からJA多気郡が本組合に入会し、伊勢たくあん製造のための原料栽培が始まった。	
	醤油味噌	組合員各社、仕込みの季節を迎えて生産は忙しいが、販売面ではイベント開催や展示会参加、また新商品の開発等で試行錯誤して拡売に努力している。しかし、長続きせず市場は停滞気味である。原料においては、食用米は新米が店頭に並びはじめ米不足感是一段落したが、加工用米は輸入米の高騰で厳しい状況である。大豆は比較的価格は安定しているが、バイオエネルギーの需要が旺盛で今後海外でバイオエネルギーの需要がさらに高まれば、価格高騰の心配がある。	
	他に分類されない食料品 製造業	今月は衆議院選挙でいろいろ考えさせられた。103万、106万、130万の壁に悩まされ、パートの社会保険加入をすすめてきた。最低賃金を1,500円にすれば103万はすぐに超えてしまう。最低賃金をどんどん上げるなら、壁もかえるべきだと本当に思う。賃金、燃料、ガソリンの高騰により価格転嫁が必要である。自社の場合は加工賃の交渉が必要だ。	
	製麺	10月5・6日に秋田まるごとうどん大会に出展した。毎年のことだが活気のあるイベントで地域が活性化している。2日目は花火(約15分間)までのイベントであった。今回のイベントで12店舗が出店されて、平均で2,200杯、約3万食が売れるくらいの人気ぶりであった。業界としてもこのようなイベントに参加できてPR活動を通じて伊勢うどんを知っていただく機会となった。今後は12月に香川県でうどんサミットが開催される。	
木材・木製品	木材	木造住宅は引き続き需要低迷しており、製材工場は原木高・製品安傾向の中、厳しい経営環境を余儀なくされている。	
製 造 業	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。また、従業員の確保が困難である。
		古紙	10月の仕入れ量は、段ボール・約91±5%位、新聞、チラシ・約88±6%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±3%位である。寒暖の差が激しく夏日が続くこの頃で冬物の売れ行きや下火になったお歳暮等の消費が心配される。今では古紙問屋の古紙集荷量の55~70%弱を占めるような段ボール古紙の販売価格が1円値下げされ、10月からの最低賃金による支払い増加や運賃、電力、食費等の支払いに悪い影響を受けるのは明らかであり、古紙の発生が毎月激減し、今のところの段ボール等の板紙製造の主原料集荷の為の将来の担い手に不安と実質的な給与賞与の原資がマイナスにされた事は非常に残念であるが、製品原紙の販売量や販売価格等、輸出入紙の価格低迷などの理由があるのだろう。飲食店等はコロナ前のような売上や来客数や粗利には戻らないし、やめさせた人出は帰ってくることはなく経営は大変難しいと考える。10年ほど前には125~130円の対ドル為替水準であったと思うが、20円以上円安になって史上空前の収益を上げる中小零細企業もあるようだが為替変動以下の原料価格で全てを賄う国内中心経営の会社には恩恵は少なく、あきらめと発想の転換が改めて必要なかと思う。年末に向けて賞与の支払いや事故、火事等の心配もありゴミ等の置き去りや古紙・古着の持ち去りの行為も変わらずに多発するだろう。常に気疲れと更に追加労働かと思う。
印刷	印刷	先月に連絡した通り、三重県民手帳を10月11日(金)に発売し、同日、三重県庁ロビーにて販売を行い、知事、庁内に勤める職員、またSNSで告知をしていたこともあり、一般のお客さま等にご購入いただく機会となった。また12日(日)においては、当組合青年部が津まつりにて販売ブースを設け、販売及び周知に努めた。今後においても、SNSを中心に発信し、取扱店で完売するよう働きかけを行う。	
窯業・土石製品	伊賀焼	各自の業況については忙しくしているように感じる。原料、光熱費の高騰に対応しきれしていない。	
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、総じて増加傾向となっている。中心は自動車関係であり、従来の燃料系のほか、EV関連の受注も増加しており、引き続き堅調な状況が期待できる。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
一般機器	四日市市	10月に入り受注状況は少し好転しているように感じる。販売価格の価格転嫁はなかなか進まず難しい状況である。特に量産部品の価格が設定されている製品については特に価格交渉が難しいと感じる。全般としてはまだ受注量は少ないため、売上を増やす自助努力は今後も必要になっているが、日本の衆議院議員選挙、アメリカの大統領選挙等不安定な部分があるため、今後の状況は見通しは明るくはない。	
	津市	まだまだ自動車関連は受注が戻っていない。内示で動いてはいるものの確定注文で受注がゼロになった部品もある。組合内では大幅な受注減はないものの取引先の中には休業を検討しているところもあるみたいなので受注動向に注視していく必要がある。	
	伊勢市	依然として設備投資の意欲は低く、なかなか上昇しない状況が続いている。特に自動車関連下請製造業などの生産ラインの稼働率が低く、これが設備投資の意欲の低さに関係していると思われる。一方で非自動車産業の中での一部の業界は顕著に伸ばしているところもあり、設備の投資は増えている。日本の産業では、自動車関連産業が多くを占めていることから、相対的に景況感は良くない。	
	鳥羽市	期末に入ったが、全然動きがなく非常に苦慮している。稼働率が悪く今後に期待している。	
電気機器	鳥羽市	期末に入ったが、全然動きがなく非常に苦慮している。稼働率が悪く今後に期待している。	
輸送機器	伊勢市	前月に続き、物量減少継続で売上の昨年比は減少幅が拡大している。	
非製造業	青果	野菜前半：猛暑が続き全般的に入荷は少なめである。北海道産かぼちゃは平年並みの価格で甘みがあり、おいしい。北海道産玉葱、ジャガイモは順調に入荷でき、キュウリ、トマト、ミニトマト、レタスは、高値が続いている。 野菜後半：高値疲れの影響から一部で相場が下がった品目もあり、トマト、ミニトマト、キュウリ、レタス等がやや値下がりしてきた。キャベツ、白菜は高値が続く。地場産のほうれん草、小松菜はお買得になってきた。 果物前半：和歌山県産種無し柿が最盛期に入ってお買得になった。生食のほかサラダに、また、冷凍してシャーベットにといろいろな方法で食してほしい。長野県産シャインマスカットは最盛期となり、価格も手が届きやすくなってきた。梨は、東北地方産のあきづき、南水がピークに入り、甘くて味もよい。県内産みかんは味も良く人気だが価格は高値が続いている。 果物後半：入荷は平年よりやや少なめである。リンゴは長野県産、青森県産の入荷が増えており、今がピークの「秋映」は歯ごたえがあり、甘さと酸味のバランスも良い。また、人気の「シナノスイート」はきれいに洗って皮ごと食べ、「シナノゴールド」と食べ比べるのもおすすめである。みかんは、三重県産、愛知県産、和歌山県産ともに猛暑の影響で昨年より入荷量は少ないが味は良い。ブドウは、シャインマスカット、クイーンルージュのどちらも皮ごと食べられる人気一番、価格も今がお買得である。	
	小売業	自転車	中小企業労組は大手との各差は正のため賃上げ6%以上を目指すとしているが、その流れは十分に波及していないように見える。物価高による家計の圧迫はエンゲル係数28%まで上昇した。我々自転車等の需要は買い控えとなり中古自転車の問合せはあるものの新車の動きは完全にストップの状態である。10月に入り各メーカーが2025年度の通学自転車早期展示キャンペーンを打ち出すもまだ関心を示さないショップばかりである。津市の官公庁や丸之内地区等でシェアサイクルが始まった。「これ電動アシスト自転車なん？かっこええな」との声が聞こえてくる。使い勝手も良くちょっとした買い物等がいいよとの話も出始め業界にとっては一部の朗報である。
	電器	家電製品の動きとしては、価格が上昇したことについて消費者からの苦情など落ちてきたように思う。食品や衣類なども含めて価格上昇が起きている状況なので家電製品だけという事でもなく馴染んできたと思われる。ただ設置作業などに伴う工事の中で、アスベストを含有している壁の作業や高所作業の安全確保が厳しくなってきたので、費用面含めて対策を検討しなければならない。	
	石油	昨年、公正取引委員会の「令和5年度・給油所の競争状況に関する地域実態調査地域」に伊勢市が指定された。これは伊勢地域や周辺において継続してガソリン等の流通における不当廉売が行われてきたことから指定された。伊勢市が実態調査地域の指定を受けたことから、伊勢市や近隣のガソリンスタンド経営者を対象として独占禁止法の不当廉売規制について公正取引委員会の取組みの説明を受けたところである。 ところがつい最近、近隣の志摩市に衣・食・住を取り揃えた大型スーパーセンターにガソリンスタンドが新たにオープンし、地域の価格からすれば不当廉売とも言える安価でガソリン、灯油を販売し始めた。このまま安価な販売が継続されれば地域のガソリンスタンドは廃業に追い込まれ、災害時等の地域の最後の砦となるガソリンスタンドのネットワークが維持できなくなってしまう恐れがあることを強く言いたい。	
	スポーツ	6月末で昨年決算が終わり新しい年度になったが、1名今期より脱退した。理由としては高齢であるためだが、我々の業界も高齢化が進み、今後も閉店していく店が増えそうな気配である。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	夏場休止していた毎月第4日曜に開催される商店街での朝市イベントが10月より始まった。今回は熊野古道世界遺産登録20周年の記念事業として商店街近隣にある5つのお寺と熊野古道の峠にある地蔵を巡るスタンプラリーがこの日より3月末までの期間として始まった。インバウンドをはじめとした観光客や地元の方にお寺の素晴らしさを再認識してもらう事と周遊による商店街活性化が目的で企画されたイベントで、新たな活性化ができるか期待するところである。また3月迄毎月各種趣向を凝らしたイベントを開催し(バイカーと人気YouTuberとのコラボイベントやさんま祭り、クマノザクラフェア等)朝市イベントを盛り上げる予定となっている。
	旅館	諸物価高騰の影響で消費が落ち込み、売上を落としている業種として、①衣料品関連 ②外食 ③旅行と報道されていた。宿泊業も夏以来秋のシーズンになっても回復が遅れているようで対前年比90%~100%、2019年同月比60%~80%程度であった。
	一般廃棄物処理	県内の地域に差はあるが、人口減少問題による業務減少が問題になっている。
サービス業	警備	例年と変わらずの受注量であるが、人手不足で受注を断っている状態である。
	総合工事業	9月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ約10%の減少である。特に国や県の国、市町発注工事においては減少しているが、4月から9月末までの上半期全体では前年度とほぼ同額の状況である。
	内装工事業	10月は対前年同月比で少しながらプラスとなった。ずっと悪い流れであったが、一応その流れをストップすることができた。但し、年末までどのような状況になるかは予想できない。
建設業	水道工事業(亀山市)	亀山市からの委託業務の量水器の取替が終了した。委託業務としては漏水修理となり、出来高としては前年と変わらないと思われる。組合員の受注状況としては、大型受注は亀山市発注工事だけであり、民間の大型受注は見込めない中、人手不足で忙しい状況が続いている。しかしながら、景気については先行不透明で悪い傾向が続きそうである。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後の対応として、地域ブランドの勉強会を開いて、各組合員に地域ブランドのあり方を知ってもらおう。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人手不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしく願いいたします。
サービス業	旅館	需要喚起策を一日も早く企画してもらいたい。人手不足対策として宿泊業向けの雇用支援対策を定期的に開催していただきたい。